

音楽科学習指導案(本時案) 5 学年

題材名『曲想を味わおう』 教材名《威風堂々》

1 本時の位置 (全4時間扱い中の第2時)

前時：曲想の変化に気をつけながら「威風堂々」を聴く活動をした。

次時：パート練習をしたり、全体で合わせたりする。

2 本時の主眼

曲想に変化のある《威風堂々》の曲の面白さに気が付きはじめ曲についてもっと知りたいと願う子どもたちが、《威風堂々》を演奏してみる場面で、どのような演奏にしたいかを考えそれに沿った演奏の工夫を考える活動を通して、自分たちの思いや意図のもとで《威風堂々》の曲想を生かせるよう工夫をしてパート分けすることができる。

3 指導上の留意点

・重い楽器などもあるため、個人練習の時間に児童がふざけ合い怪我をするようなことがないよう、全体をよく見渡し、安全に学習がすすめられるように留意する。

・動画を見るため、プロジェクターやパソコンを用意しておく

4 本時の展開

階	学習活動	予想される子どもの反応	階	指導・援助と評価
導 入	1 前時を振り返り、 《威風堂々》について感じたことを発表しあう	・迫力があつた ・途中で曲の雰囲気が変わった ・力強いイメージ	5	○「どんな曲だった?」「どんな楽器が使われてたかな?」
	2 動画を見る	・タタタタンって音は、太鼓の音だったんだね ・トライアングルを使っていたね ・僕らも演奏してみたいな	8	○演奏している様子を動画で見ることにより、演奏するイメージをわかせる、演奏してみたいと思えるようにする。また、使用されている楽器を目で見て確かめられるようにする。
展 開	学習問題：威風堂々を演奏してみよう			
	3 どんな風に演奏していきたいか話し合う 【全体追究場面】	・最初の部分では、小さい音にしたいと思う ・最後の方とか、迫力を出したいところは大きな音にしたいな ・迫力が出るからシンバルを使いたいな	10	○「どんな風に演奏したい?」「どんな工夫が必要かな?」「楽器は何をつかう?」「○○のような楽器を使うとどうなるの?」
開 発	学習課題：迫力のある演奏にするために、徐々に大きな音にして演奏したらよさそうだ			
	4 パートを分ける	・僕は木琴がやりたいな ・シンバルをやりたい人がたくさんいるみたいだけど、そんなに多人数は必要ないと思うよ ・私は音をきれいに聴かせて流れるような演奏をしてみたいと思ったから、リコーダーを選んだよ。	12	○人数に大きく偏りが出ているにも関わらず予想のような発言が出ない場合は、バランスを考えてもらえるような発問をすることで、人数調節をするよう教師から促す。 ○ワークシートに、「なぜその楽器を選んだのか」を記入してもらうことにより、子どもたちの思いや意図を把握する
終 末	5 個人練習 【個人追究場面】	・高いレの音が上手に吹けないな ・楽譜の読み方がわからないよ ・もっと練習してうまくなりたいな	5	○専科の井出先生のお力も借りつつ、楽器の使い方や楽譜の読み方で困っている児童には机間指導をする 評価：自分たちの思いや意図のもとで《威風堂々》の曲想を生かしなが 工夫してパート分けをすることが できる 評価方法：ワークシート、発言、つぶやき
	6 本時の追究を振り返る。	・音の大きさを変えるのが難しいから、これからもっと練習していきたい。 ・楽譜とは違うけど、迫力のある部分だからもう少しシンバルを入れたいと思った。	5	○子どもが本時の学習の良さを感じられるように、学習カードに振り返り欄を用意しておき、わかったことや今後工夫したい点などを書いてもらう。また、発表し合う。

平成 30 年 8 月 29 日 (水) 第 4 校時

授業会場 音楽室

5 年西組 男子 17 名 女子 14 名 計 31 名

指導教官

授業者